

## 感染症情報 10月7日～13日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	702例(堺市	57例)
②感染性胃腸炎	661例(堺市	38例)
③溶連菌感染症	354例(堺市	36例)
④手足口病	179例(堺市	5例)
⑤伝染性紅斑	129例(堺市	16例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	65例(堺市	3例)
---------	--------	-----

感染症報告数は前週比2.6%増の2,333件であった。

報告数の第1位はRSウイルス感染症で、以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑の順であった。

RSウイルス感染症が府下で1%増、堺市で81例→57例(30%減)であった。府下の定点あたりは3.55→3.58である。感染性胃腸炎は府下で前週と比較して3%増、堺市では12%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して23%増、堺市で26例→36例は38%増であった。手足口病は府下で11%増、堺市で11例→5例であった。伝染性紅斑は府下で15%減、堺市で14例→16例であった。

インフルエンザが府下で前週93例→今回65例は30%減で、定点あたり0.31→0.22である。堺市では前週4例→今回3例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。